

所得格差最大に

「再分配改善」も最高29%

08年ジニ係数

厚生労働省は1日、税金や社会保障などの再分配機能による所得への影響を調べた08年所得再分配調査の結果を発表した。1に近いほど格差が大きいことを示すジニ係数は、再分配前の当初所得で0・5318と前回の05年調査(0・5263)から増加し過去最大で、所得格差が広がっていることが分かった。ただ、再分配後は0・3758と前回(0・3873)から金が当初所得に含まれないため、高齢化によって平均当初所得の低い世帯が増加している」と説明。改善度が大きく変わったのも年金受給者の増加が主要因と分析している。

調査は3年に1回実施。07年の所得を基に推計した。当初所得は前回比4・4%減の平均445・1万円。これから税と社会保険料を引き、医療・介護・保育の社会保険給付を加えた再分配所得の平均は517・9万円(同じジニ係数

5・8%減)だった。

当初所得のジニ係数を世帯主の年代別にみると、60歳以上の世帯で全体平均を超え、高齢ほど世代内の格差が大きい。75歳以上は0・8166と平均より0・2848ポイントも大きかった。再分配後は0

・4146と平均との差は0・0388ポイントに縮まっている。現役世代では29歳以下が再分配後でも0・3440と比較的高かった。

再分配による恩恵度を示す再分配係数は16・4%。世帯主が60歳未満の現役世代ではすべてマイナスで、再分配の恩恵は少なかった。逆に70歳代前半は年金受給などから高く、114・9%、75歳以上は221・4%だった。

【鈴木直】



所得格差を表す指標。イタリアの統計学者ジニが考案した。全員の富がまったく同じ完全平等を「0」、数値が大きくなるほど不平等度が高くなり、すべての富が1人に集中する完全不平等を「1」とする。

小泉政権下での非正規労働の広がりなどから格差問題が指摘され、注目を浴びた。